



子どもの森づくり通信

(発行: NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク)

「子どもの森づくり運動」
フラグシップ園会報
(2014年6月号)

〒144-0054 東京都大田区新蒲田1-10-4 tel:03-5711-0362 fax:03-5711-2264
http://www.kodomonono-mori.net mailto:info@kodomonono-mori.net

「子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。



岩手県山田町に植えられたどんぐりの苗木です。
元気に育っています。

(目次)

1. JP子どもの森づくり運動活動レポート
2. 「東北復興グリーンウェイブ」活動レポート
3. 「みどりとふれあうフェスティバル」出展レポート
4. 事務局からのお知らせ
- どんぐり博士の育苗講座 2014～基本編⑩～

■「子どもの森づくり運動」とは

今子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかし、子どもたち(特に幼少期の)は、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「子どもの森づくり運動」は、全国の保育園・幼稚園を拠点に一貫した森づくり活動を通じて、幼児期の子どもたちに「生きる力」と「健全な環境意識」を育むための自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「JP子どもの森づくり運動」とは

特別ご協賛企業「日本郵政グループ」様との協働で、運動を全国に普及促進するフラグシップ活動を「JP子どもの森づくり運動」、フラグシップ活動実施園を「JP園」として活動を展開、2010年7月、フラグシップ園全国ネットワークが構築されました。

■「子どもの森づくり運動」運営体制

・運営 : NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク(「子森ネット」)

・特別協賛 : 日本郵政グループ

・後援/協力 : (社)全国私立保育園連盟

(順不同) (社)国土緑化推進機構

(社)日本森林インストラクター協会

NPO法人MORIMORI ネットワーク

(株)実業之日本社 月刊ガルヴィ編集部

(社)大谷保育協会

NPO法人C・C・C 富良野自然塾

NPO法人自然体験活動推進協議会

(社)日本オート・キャンプ協会

保育環境研究所ギビングツリー



1. 「JP子どもの森づくり運動」活動レポート

それぞれの地域に植樹済みの苗木を見に行く活動のレポートです。今回は植樹活動と共にご報告いただきました。時には自然界での活動なるがゆえの厳しい現実がつけつけられる活動ですが、レポートにある様に子どもたちはそこから必ず大切なことを感じとってくれると思います。各園におかれましても実施されることをおすすめします。

●福井県「大野幼稚園」植樹&苗木を見に行く活動 ・日時:2014年5月18日(日) ・会場:九頭竜湖

午前9時頃に幼稚園を出発し、約1時間かけて九頭竜湖畔のフィールドに到着しました。まず、園長によるあいさつ。引き続き自然体験の学習の意味・植樹の手順を説明して作業に入りました。昨年・一昨年に植樹した100本余りの苗も十数本は育っていましたが、ほとんどは雪と雑草とイノシシによって消滅していました。この様子を見て園児も保護者も保育者も自然の厳しさを実感する良い機会となりました。雑草に覆われた現場では草刈りをしてからの植樹となりましたが当日は天候にも恵まれ約一時間半、親子で楽しく作業しました。その後おのおの家族毎にお弁当、そして湖畔で水切りや石拾い等をして自由に遊び、午後1時間半にバスにて帰路につきました。 By: 大野幼稚園ご担当者



●岐阜県「浄心保育園」植樹&苗木を見に行く活動 日時:2014年6月8日(日) 会場:油坂桜パーク

昨年植えた苗木は順調に成長していくはずであったが、今年は岐阜ではマイマイガが大量発生したようで、クヌギ、コナラミズナラあたりの葉はほとんど虫食い状態。現在もほぼ確実に幼虫(毛虫)が付いている。ウバメガシ、アラカシなど常緑樹は虫害は少ないものの雪害で枝折れが多く見られ、既に全体の10%近くの苗は淘汰されていました。それでも、今年度の植樹活動は園児保護者職員合わせて7~8名の参加する大植樹会となりました。植樹方法としては、水切れが心配でしたので、腐葉土を追加し、根の周辺を細い棒で突きながらたっぷりと水をやり根周辺の空洞を無くすとともに保水力を高めるため、幹周りに土手をつくる方法をとった。解散後、淘汰されてしまった苗木の植樹者の標柱は、近くの生きている苗木へ移設。将来的に残った木の元に多くの標柱が立ち並ぶことになるわけで、継続植樹活動を行なう浄心保育園は、植えた苗木を見に行く活動の意図する狙いを実践できるモデル園になっていると感じた次第です。

By 子森ネット 中村



2.「東北復興グリーンウェイブ」活動レポート

5月22日グリーンウェイブの日に開催された「東北復興グリーンウェイブ」の植樹会には、全国の参加園から東北の苗木が届けられました。そんな参加園の「苗木を見送る活動」を順番にご紹介します。

●東京都「新宿せいが保育園」東北の苗木を見送る活動

・日時: 2014年5月8日 ・会場: 自園 ・日本郵政グループ参加者: 落合郵便局 安立局長さん



大人気、新宿せいがのドンぐリーズ



藤森園長先生のごあいさつ



「どんぐりの絆BOX」が安立局長に手渡されました。



記念撮影

3.「みどりとふれあうフェスティバル」出展レポート

多くの人たちに、緑についての理解と関心を高めてもらおうと、毎年4月15日から5月14日まで「みどりの月間」が設けられています。期間中は、全国各地で緑に親しむ各種イベントが開催されます。その締めくくりとして5月10日(土)11日(日)の両日、東京都日比谷公園にて「みどりとふれあうフェスティバル」(主催:「みどりの感謝祭」運営実行委員会)が開催されました。「JP子どもの森づくり運動」では、東北復興グリーンウェイブの広報活動としてブース出展とステージイベント(10日のみ)に参加しました。ステージイベントでは、「子どもの森づくり運動」のスペシャルサポーターであるチェンソーカービング世界チャンピオン栗田宏武さんによるカービング・デモンストレーションを実施しました。



会場風景



ステージ風景

5. 事務局からのお知らせ

子どもたちに活動における大切なことを伝えるためには、折に触れて子どもたちが苗木とふれ合える機会を与えてやっていただければと思います。下記の活動をおすすめします。

1) 苗木をお披露目する活動

地元で子どもたちが拾ったどんぐりや、昨年秋に東北から届けられたどんぐりが芽生えてくれました。そんな季節ならではの活動として「苗木のお披露目会」の実施をお奨めします。活動を通じて、子どもたちと共に生命の芽生えを祝い、あらためてみんなで苗木を大切に育てていこうという気持ちを共有しましょう。



2) 植えた苗木の成長を見に行く活動

苗木は、活動に携わった子どもたちの“大きなあ〜れ！”という願い、そしてそんな子どもたちを見守る保護者や幼稚園・保育園の先生たちの『子どもたちと共に健やかに育て』の願いを込めて植えられ、見守られてまいりました。だから植樹した苗木の成長は、それぞれの実施園における「子どもの森づくり運動」の活動の成果であり、子どもたちの“育ち”のスケールです。そんな苗木を見に行き、その成長をみんなで確認しましょう。



3) 苗木を見守る活動「夏草刈り」のご提案

夏本番を迎え、苗木たちも子どもたちと一緒に元気に育つ季節です。

同時に、苗木が植えられたフィールドの夏草も大きく育ち、まだ幼い苗木たちを覆い隠してしまいます。苗木を見守る活動として、有志を募り、夏草刈りを実施しましょう。その際、せっかく育った苗木と一緒に刈らないよう、十分に注意して下さい。



●どんぐり博士の育苗講座 2014～基本編⑱～

前回までで植樹についての話しは終了した所ですが、今回は5月22日に実施した東北復興グリーンウェイの植樹を、実際の例として取り上げたいと思います。実はこの植樹は少し特殊な事例ですので、その意味合いをも含めて説明します。

どんぐり博士：河内和男（森林インストラクター）



前通信の植樹活動レポートの写真を見てもらうと分かりますが、今回の植樹は、植樹間隔が狭く、子どもたちの作業も少々窮屈そうでした。植樹地について具体的に記すと、おおよそ横11m、縦6mの横長の長方形で、この敷地に横60cm、縦70cm間隔で植樹を実施しました。前回の講座で触れた植樹間隔に照らし合わせると、かなり狭い間隔での植樹といえます。

この狭さにはもちろん理由があります。というわけで、ここで今回の植樹地の特殊な意味合いを説明します。前号のレポートにはこう記されています。「全国から送られてきた苗木はここでもう少し大きくなるまで育てられ、いずれ山田町の緑の復興に活用される予定です」。つまりこの場所が最終の植樹地では無く、今後の山田町の緑の復興のための苗木として使えるよう、ここで苗を生長させる畑の役割を持っています。

そのために最初に記したような狭い間隔での植樹を実施しました。狭くすることによってできるだけ多くの苗を育てるのと、もう一つ、苗木ですから移植時に運搬が必要となります。枝が大きく広がった苗木だと運搬に支障を来すため、あまり枝が広がらないように、苗同士を近づけて植樹を行ったわけです。

数年後には2～3m程度の元気な若木になって、被災地の緑と心の復興に微力でも役立てるよう、植樹された苗の世話を山田町の子もたちや地域の方々と一緒に続けて行きたいと思います。